

過去の地震から知る、未来の備え ～自分が「治療を受ける側」にならぬように

名古屋大学災害対策室 木村玲欧

未来の地震にそなえるためには、過去の地震を知ることが大切。1945年にこの地域で2,306人の死者を出した「三河地震」から、未来の備えにつながる教訓を考えていきます。

■三河地震の夜、別棟は傾いただけで倒れなかった。しかし、大きなたんすが倒れてしまい、寝ていたおじいさんの腹の上を直撃、おじいさんは亡くなってしまった。(宝飯郡形原町(蒲郡市形原町)市川弘治さん)

おじいさんのところにはたんすがあったけど、たんすが腹の上に落ちてきてね、ほいで死んじゃった。家は傾いただけで倒れなかったけど、たんすで死んだだね。あと弟も、天井が落ちてきて死んじゃった。

隣組が11軒あったけど、建っとる家が1軒だけ。2階建ての家は、2階はいいんだけど、1階はあかんた。ただ、トタン屋根のところは納屋でも建とったでのん。



絵 藤田哲也

防災の目的は「いのちを守る」「くらしを守る」の2つです。「いのちを守る」防災対策については、家屋の倒壊、家具の転倒による直接死を防ぐのが最重要課題です。今回は「家具の転倒・落下物」をとりあげます。なお今回は、家電(テレビ)や楽器(ピアノ)やインテリアも、家具に含めます。

具体的な対策は、1)壁・床・天井などに固定する、2)レイアウトを工夫する、3)収納を工夫する、4)地震に強い家具を購入するなどです。1)は、食器棚・たんす・本棚・テレビ・ピアノ・つり下げ照明など「地震時に危ない家具」について、ホームセンターで売っている転倒・落下防止グッズなどで仕様書のとおり固定・転倒防止をすることです。これはよく言われている対策です。

しかし、2)も効果的な対策です。そもそも寝る場所・普段いる場所の近くに大型家具を置かない、家具が頭や体に倒れない・出入口をふさがない位置にレイアウトして、「いのちを失う・ケガをする原因そのものを取り除く・遠ざける」対策です。3)は、「重いものを下に収納して重心を下げる」「高い所に重いものを置かない」「食器棚のガラスに飛散防止フィルムを貼る」「ゴムのシートで食器をすべりにくくする」といった工夫です。4)は、突っ張り棒機能をもつ戸棚・本棚や耐震ベッドなどの耐震家具を買ったり、新築時・マンション購入時にはそなえつけ家具を選ぶなどの対策です。

1995年阪神・淡路大震災では、亡くなった人の46.2%が建物倒壊等が原因、21.9%が建物を主とするが家具も関係する複合要因、9.0%が建物は半壊以下で家具が原因でした。つまり亡くなった人の約3分の1が、家具の転倒・落下で命を落としているのです。また、ケガをした人をみると、2004年新潟県中越地震では、41.2%が家具の転倒・落下物が原因、24.5%が本人の転倒、10.6%が熱湯等、7.9%がガラス・鋭利物が原因でケガをしました。「訓練を活かして災害時には頑張るぞ！」という方、自分や家族が「治療を受ける・助け出される」側にならぬよう、くれぐれもご注意ください。